

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：主に小売業 ● 事業概要：コンビニエンスストア、総合スーパー、食品スーパー、百貨店、専門店、フードサービス、金融サービス、IT／サービス等の事業を中心とした企業グループ、及び純粋持株会社（弊社） ● 事業規模 <ul style="list-style-type: none"> 売上 11兆9,976億4,300万円（連結、2020年2月期） 従業員数 138,808人（連結、2020年2月末）
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 環境宣言「GREEN CHALLENGE 2050」で掲げている目標の範囲を拡大した内容で、SBT認定を受ける方向で検討。 ※なお、「GREEN CHALLENGE 2050」における店舗運営のCO2排出量削減目標のうち、2050年までの削減目標は、「80%以上削減（2013年比）」から「実質ゼロ」へ、2020年12月改定。</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> Scope1・2と範囲を揃え算定を行った上で、サプライヤーエンゲージメントに関する目標を設定する方向で検討。</p>

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

項目	内容																										
3.基準年のGHGインベントリ	<p>● Scope 1・2・3の排出量の状況（2019年度） 範囲：グループ主要10社合計</p> <p><Scope3カテゴリ別比率詳細></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cat.1（購入した製品・サービス）</td> <td>86.0%</td> </tr> <tr> <td>Cat.2（資本財）</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>Cat.3（スコープ1・2以外の燃料・エネルギー活動）</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>Cat.4（物流・上流）</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>Cat.5（事業から出る廃棄物）</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>Cat.6（出張）</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>Cat.7（雇用者の通勤）</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>Cat.9（物流・下流）</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>Cat.11（販売した製品の使用）</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td>Cat.12（販売した製品の廃棄）</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>Cat.13（リース資産（下流））</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.1%</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリ	割合	Cat.1（購入した製品・サービス）	86.0%	Cat.2（資本財）	3.2%	Cat.3（スコープ1・2以外の燃料・エネルギー活動）	1.0%	Cat.4（物流・上流）	1.6%	Cat.5（事業から出る廃棄物）	0.3%	Cat.6（出張）	0.1%	Cat.7（雇用者の通勤）	0.2%	Cat.9（物流・下流）	0.2%	Cat.11（販売した製品の使用）	0.4%	Cat.12（販売した製品の廃棄）	6.1%	Cat.13（リース資産（下流））	1.0%	その他	0.1%
カテゴリ	割合																										
Cat.1（購入した製品・サービス）	86.0%																										
Cat.2（資本財）	3.2%																										
Cat.3（スコープ1・2以外の燃料・エネルギー活動）	1.0%																										
Cat.4（物流・上流）	1.6%																										
Cat.5（事業から出る廃棄物）	0.3%																										
Cat.6（出張）	0.1%																										
Cat.7（雇用者の通勤）	0.2%																										
Cat.9（物流・下流）	0.2%																										
Cat.11（販売した製品の使用）	0.4%																										
Cat.12（販売した製品の廃棄）	6.1%																										
Cat.13（リース資産（下流））	1.0%																										
その他	0.1%																										

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<p>【リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 炭素税の導入、及び電気代上昇による、支出の増加。 ● 商品調達・生産コストの上昇。 ● 自然災害の増加に伴う休業の増加により、売上が減少。 ● 原材料(農畜水産物)の収穫(収獲)量減少による、売上の減少。 <p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お客様のサステナブルな生活様式に合わせた商品・サービス開発により売上が増加。(例：環境配慮型商品、EV自動車への充電サービス等)
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● SBTの認定を目指すことを契機に、範囲を拡大し、よりグループ全体をカバーした目標の策定を目指す。 ● SBT認定を受けることにより、サプライチェーン全体のCO2排出量削減の取組みを深化させる。 ● CO2削減にグループあげて取組み企業価値の向上を図るとともに、脱炭素社会の実現に貢献する。

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境目標「GREEN CHALLENGE 2050」の場合は、サステナビリティ推進部門と経営層との間で何度も議論を重ねたあと、取締役会にて決議を行い策定した。 ● また、実際に取組みを推進するのはグループ各社であり、各社の経営層の理解が重要であるため、グループ各社の経営トップへ丁寧に説明を行った。 ● 今回のSBT認定についても、同様のプロセスにて進める予定。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● SBT認定を受ける目標の、対象範囲の決定。及び、対象範囲となるグループ各社の連携強化。 ● Scope3算定を実施する対象を、小売以外の業態のグループ会社、海外のグループ会社への拡大に向けた、算定手順の確立。 ● Scope3排出削減の取組みに関するお取引先様のご理解と、お取引先様との協働による削減取組みの推進。 ● 「GREEN CHALLENGE 2050」で掲げる目標以上の取組み推進・強化。